

2019年（令和元年）

12月27日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

12/12~12/18のNYMEX・WTIIは、59.18~60.94ドルの範囲で推移した。

12月19日は、このところの米中貿易協議の正式合意等世界経済の減速懸念の後退、OPECプラスの減産強化への期待感、前日のEIAの原油在庫取り崩し報告等により、反発した。1月限終値は前日比0.29ドル高の61.22ドル。

週末20日は、クリスマス休暇を前にした利益確定売りが広がり、反落した。この日から中心限月に繰り上がった2月限終値は前比0.74ドル安の60.44ドル。なお、ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は685基と前週比18基増と2週連続で増加した。

週明け23日は、引き続き、米中貿易協議の第一段階合意を好感、世界景気回復への期待感から、小反発した。米国株式は史上最高値を更新した。ただ、先週末のサウジ・クウェート両政府の旧中立地帯での原油生産再開の合意報道、ノバク露エネルギー相の減産緩和から継続まですべての選択肢を検討するとの発言、米国稼働リグの増加報告などが上値を抑えた。2月限終値は前週末比0.08ドル高の60.52ドル。

24日は、OPECプラスの協調減産、世界景気回復など需給均衡達成への期待感から続伸した。2月限終値は前日比0.59ドル高の61.11ドル。

25日は、クリスマスのため休場。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（2月渡し）は12月12日~18日の間63.80~65.80ドルの範囲で推移した。12月19日66.40ドル、20日66.90ドル、23日66.30ドル、24日66.90ドル、25日67.50ドルで推移した。

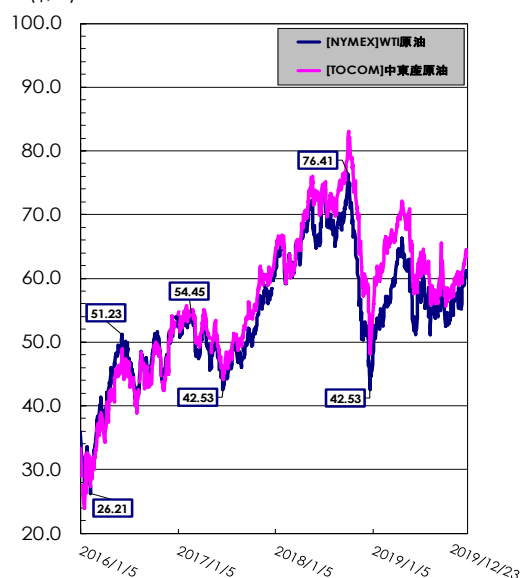
為替は12月12日~18日の間108.53~109.56円の範囲で推移した。12月19日109.72円、20日109.43円、23日109.42円、24日109.47円、25日109.35円で推移した。

財務省が12月26日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、12月上旬の原油輸入平均CIF価格は、45,327円/klで、前旬比889円高、ドル建て66.26ドルで前旬比1.39ドル高。為替レートは1ドル/108.76円だった。

そのような中で、12月23日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.9円の値上がり、軽油は同0.9円の値上がり、灯油は同10円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリン・軽油が8週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がりだった。この週（12月第4週）の原油コストは値上がりし、次週・次々週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値上げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/15 ~ 12/21	3,519 ▲ 51	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.9 ▲ 1.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/21	11,205 ▲ 357	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	12/23	63.23 ▼ -0.18	▲ 15.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	12/23	60.52 ▲ 0.31	▲ 18.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月上旬	66.26 ▲ 1.39	▼ -5.13
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,327 ▲ 889	▼ -5,475
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.76 ▲ 0.16	▲ 4.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/23	110.42 ▲ 0.01	▲ 0.65

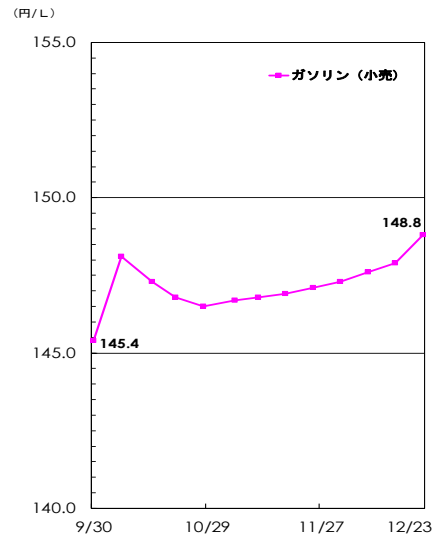
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	12/15 ~ 12/21	1,006 ▼ -43	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	908 ▲ 72	▼ -
	輸出	"	35 ▼ -115	▼ -
	在庫	12/21	1,607 ▲ 64	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/17 ~ 12/23	60.7 ▲ 0.8	▲ 4.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	12/17 ~ 12/23	58.4 ▲ 1.1	▲ 8.7
	(TOCOM/中部)	12/23	60.0 ➡ 0.0	▲ 6.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/23	148.8 ▲ 0.9	▲ 2.2

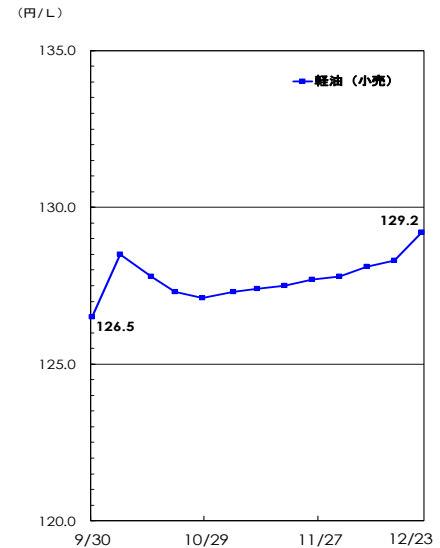
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

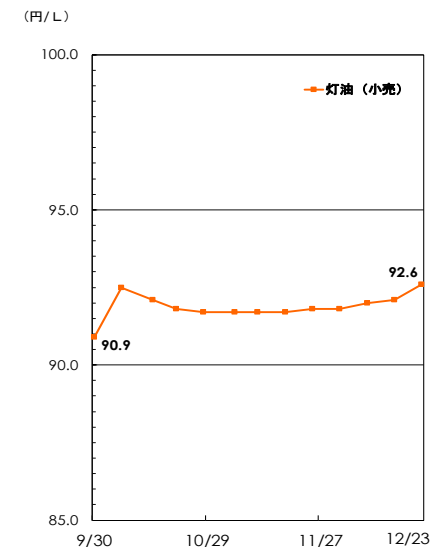
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	12/15 ~ 12/21	869 ▲ 12	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	736 ▲ 45	▲ -
	輸出	"	137 ▼ -86	▼ -
	在庫	12/21	1,439 ▼ -3	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/17 ~ 12/23	64.1 ▲ 1.1	▲ 4.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	12/17 ~ 12/23	65.5 ▲ 0.5	▲ 3.3
	(TOCOM/中部)	12/23	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/23	129.2 ▲ 0.9	▲ 2.0

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	12/15 ~ 12/21	358 ▼ -19	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	470 ▼ -76	▼ -
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -
	在庫	12/21	2,341 ▼ -112	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/17 ~ 12/23	64.0 ▲ 0.9	▲ 5.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	12/17 ~ 12/23	62.7 ▲ 0.9	▲ 7.3
	(TOCOM/中部)	12/23	63.8 ▼ -0.3	▲ 7.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/23	92.6 ▲ 0.5	▲ 0.8



■ 関連情報

1 海外/原油

12月25日のNYMEX市場WTI原油は、クリスマス休暇につき休場。

市場の注目は、27日午前発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報に移っている。米国原油在庫の市場予測は前週末比180万バレル減の取り崩しの見通し。今週のWTI原油は、米中貿易協議の第一段階正式合意やOPECプラスの減産拡大への期待感が根強く、堅調に推移した。12月24日の2月限の終値は前日比0.59ドル高の661.11ドル、3月限の終値は同0.59ドル高の60.94ドル。

EIAによると、12月23日時点のガソリンの小売価格は、前

週比0.4セント値下がりの1ガロン2.532ドル(73.8円/ℓ)、ディーゼルは同0.5セント値下がりの3.041ドル(88.6円/ℓ)となった。ガソリンは6週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年12月15日～12月21日に休止したトッパー能力は12.8万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は351.9万klと、前週に比べ5.1万kl増加。前年に対しては4.7万klの減少。トッパー稼働率は89.9%と前週に対して1.3ポイントの増加、前年に対しては1.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.1%減、ジェット/11.2%減、灯油/4.9%減、軽油/1.4%増、A重油/28.2%増、C重油/23.3%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比1.0万kl減)。軽油の輸出は13.7万kl(前週比8.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比で灯油、A重油、C重油で減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェット、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は90.8万 kl(対前週8.5%増)と2週振りで増加となり、18週連続で100万klを下回った。ジェット13.3万kl(対前週26.0%増)、灯油47.0万kl(対前週13.8%減)、軽油73.6万kl(対前週6.4%増)、A重油22.5万kl(対前週21.2%

減)、C重油18.3万kl(対前週14.9%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (12/15 ~ 12/21)	前週 (12/8 ~ 12/14)	前週比	
ガソリン	908	836	▲ 72	(9%)
ジェット燃料	133	105	▲ 28	(27%)
灯油	470	546	▼ -76	(-14%)
軽油	736	691	▲ 45	(7%)
A重油	225	286	▼ -61	(-21%)
C重油	183	215	▼ -32	(-15%)
合 計	2,655	2,679	▼ -24	(-1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月21日時点の在庫は、ガソリン、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは160.7万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては7.4万kl少ない。

灯油は234.1万kl、前週差11.2万kl減。前年に対しては10.0万kl少ない。

軽油は143.9万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては14.5万kl少ない。

A重油は71.1万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては11.7万kl少ない。

C重油は193.7万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては9.2万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (12/21)	前週 (12/14)	前週比	
ガソリン	1,607	1,543	▲ 64	(4%)
ジェット燃料	860	871	▼ -11	(-1%)
灯油	2,341	2,453	▼ -112	(-5%)
軽油	1,439	1,442	▼ -3	(-0%)
A重油	711	669	▲ 42	(6%)
C重油	1,937	1,942	▼ -5	(-0%)
合 計	8,895	8,920	▼ -25	(-0.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月17日～23日の原油価格は、前週比で大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、12月17日～23日の間、ガソリン113～114円台で大きく値上がり、軽油62～64円台で大きく値上がり後横ばい、灯油62～64円台で大きく値上がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン116円台でわずかに値上がり、軽油65～66円台でわずかに値上がり、灯油

62～64円台で大きく値上がり後横ばいで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン111～113円台で大きく値上がり後大きく値下がり、軽油65円台で値上がり後値下がり、灯油62円台で出入り後わずかに値下がりして推移した。

次週・次々週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月17日～23日の製品スポット市況は、12月10日～16日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(12/17～12/23、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は1.1円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.9円の値上がり、灯油は2.2円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.1円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

12月第5週・1月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (12/17 ~ 12/23)	前週 (12/10 ~ 12/16)	前週比
	レギュラー	60.7	59.9	▲ 0.8
	灯油	64.0	63.1	▲ 0.9
	軽油	64.1	63.0	▲ 1.1

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] 〔平均〕	今週 (12/17 ~ 12/23)	前週 (12/10 ~ 12/16)	前週比
	レギュラー	58.4	57.3	▲ 1.1
	灯油	62.7	61.8	▲ 0.9
	軽油	65.5	65.0	▲ 0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/17～12/23実績値) (単位: 円/ℓ)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 1.0
灯油	▲ 0.9	▲ 0.9	▲ 0.9
軽油	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 0.8
A重油	▲ 0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円高の148.8円、軽油は同0.9円高の129.2円、灯油は18ℓベースで同10円高の1,667円(1ℓベースでは同0.5円高の92.6円)。ガソリン・軽油は8週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが44都道府県、横ばいが2県、値下がりが1県となった。全国最安値は埼玉県の143.7円(前週比0.6円高)、その次に安いのは、144.7円の岩手県(同1.3円高)・山口県(同1.2円高)・徳島県(同1.4円高)の3県、最高値は長崎県の158.1円(同0.1円高)。最も値上がりしたのは2.2円高の京都府(152.5円)、横ばい

は高知県・秋田県の2県、値下がりはしたのは0.1円安の宮崎県(152.0円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。今週は、原油価格は大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりした。次週・次々週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。次回調査時(1月6日)のガソリン・灯油の小売価格は、値上がりが見込まれる。

(単位: 円/ℓ)				
(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/23)	前週 (12/16)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	148.8	147.9 ▲ 0.9	08/8/4 185.1
	灯油	92.6	92.1 ▲ 0.5	08/8/11 132.1
	軽油	129.2	128.3 ▲ 0.9	08/8/4 167.4

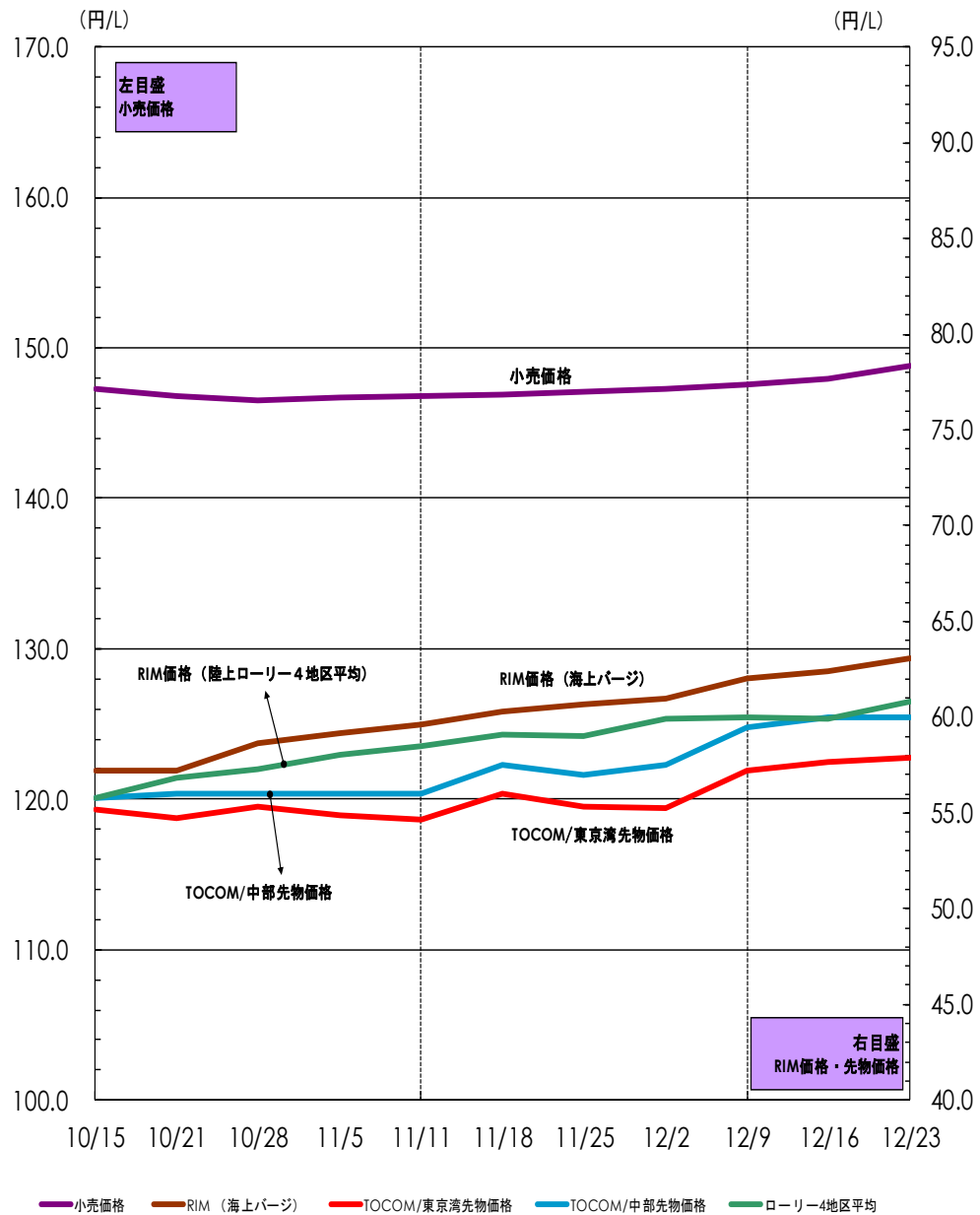
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/10/15 ~ 2019/12/23)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第38号)の公表は、1/10(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。